

氏 名：孫 大輔

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第120号

学位授与年月日：2014年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：中山 和弘（聖路加看護大学教授、主査）
菱沼 典子（聖路加看護大学教授）
松谷美和子（聖路加看護大学教授）
有森 直子（聖路加看護大学教授）

博士論文審査結果

審査日：2014年1月23日

研究科委員会提出日：2014年2月18日

看護学研究科博士後期課程	氏名 孫 大輔
専攻分野	看護情報学
論文題名	医療系専門職と市民・患者のカフェ型ヘルスコミュニケーションによる変容的学習のプロセス
審査委員	職名・専攻他 氏名
	主査 教授・看護情報学 中山 和子
	副査 教授・基礎看護学 長沼 典子
	副査 教授・看護教育学 松谷 美和子
副査 教授・遺伝看護学 有森 直子	

審査の合否および評価 (合)・否)

本研究は、情報の非対称性やコミュニケーション機会の不足、不正確なネット情報の氾濫など医療系専門職と市民・患者間の健康や医療にかかわるコミュニケーションにおける現代的課題を克服する一手法として、カフェを用いた「カフェ型ヘルスコミュニケーション」に着目したものであった。そこで、様々な健康や医療のトピックについて対話することが、参加者にどのような学習効果を及ぼすのか、「変容的学習」理論を基盤として実証的に分析を行った研究であった。過去3年間にわたり計33回の参加者を対象としたウェブによる質問紙調査にて、医療系専門職と市民・患者を含む141名（有効回収率39.5%）から回答を得て、構造方程式モデリングによる分析を行った。

結果としては、対話において「多様な価値観との遭遇」があることや「当事者のナラティブ」を聞くことで、変容的学習プロセスである「自己省察」と「パースペクティブ変容」を経て、「他者への理解」が起きていた。市民・患者と医療系専門職別の分析によると、市民・患者では、途中、「混乱的ジレンマ」という段階的プロセスを経て「他者への理解」に至るのに対し、医療系専門職では、「混乱的ジレンマ」を経ずに「自己省察」と「パースペクティブ変容」から直接、「他者への理解」と「患者・利用者への意識変容」に結びついていたものの、いずれも変容的な学習プロセスを経ている点では共通していた。

このように本研究は、カフェ型ヘルスコミュニケーションという理性的な対話の場によって、参加者は変容的学習のプロセスを経て、立場の違う「他者」への理解、すなわち専門職と市民・患者の相互理解を促進し、協働的意思決定へとつながる可能性を示唆するものであった。

ただし、審査においては、いくつか追加して検討すべきことが指摘された。それは、参加者の属性や、参加回数によって変容的学習の効果に違いが出ないかを検討すべきこと、医療系専門職の「患者・利用者への意識変容」が進むのであれば、市民・患者側も医療者に対して心理的距離が縮まるなどの変化はないか考察すべきこと、またカフェ型ヘルスコミュニケーションの場のリスクについても言及すべきこと、などであった。

これらを検討した上での修正が確認され、本論文は、市民・患者にとってのよりよい意思決定を促進すべく、専門職と市民・患者が対等な立場で対話と学習を行える場としてのカフェ型ヘルスコミュニケーションの効果を実証的に検討した先駆的な研究として高く評価できた。

本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。